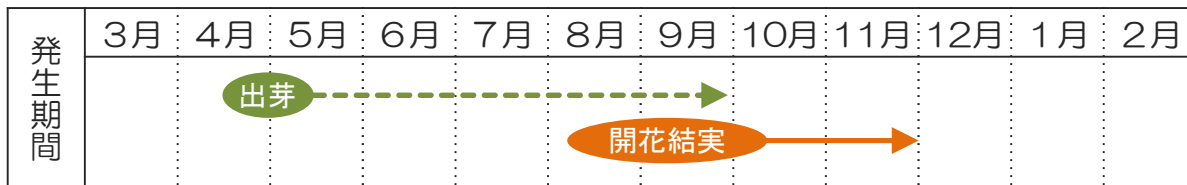


ホソアオゲイトウ

ヒユ科，一年生

やや
難

本県の大豆作において固定転作ほ場を中心に発生が見られる。シロザなどと同様に大型化して収穫作業の支障となる。類似する雑草として、イヌビユ、ホナガイヌビユ、アオゲイトウ、ハリビユなどがあるが、防除法は同じである。



形態的特徴	葉はらせん状につき，葉身は卵形で縁が波打つ。茎は直立する。花穂は円錐状で，茎頂のものは長く伸び，基部から多く分枝する。草丈は大きいもので2m程度になる。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・出芽期間は4月下旬～9月と長い。 ・畑地を好むので固定転作ほ場で多くみられる。 ・1株で数万粒の種子を生産する。 ・出芽深度は1cmと浅く，シードバンクを形成しやすい。 ・種子は湛水状態でも3年以上生存するので，水稻作後も発生する。
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌処理剤:効果は一般に高い。 ・大豆バサグラン液剤(全面):処理後低日照時を除いて3葉までで枯死～強い生育抑制効果がある。 ・アタックショット乳剤:効果は高い。ただし，5葉以上では完全枯死せず再生する場合がある。
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆作付前不耕起処理により，当年産の種子を早期に出芽させる。(4月下旬に多く出芽する) ・大豆播種前湛水処理により，種子を斉一に出芽させる。 ・晩播(7月上旬)にすると発生は少なくなる。